

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
M3140202		イムノメタボリズム学 (Immunometabolism)					生命健康科学コース専門分野	対面
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	2	医学部先進医療科学科	前期	火5,水1	日本語		単独
担当教員	氏名 加藤 優子、文室 知之 E-mail fumuro@oita-u.ac.jp 内線 6253							
授業の概要	医療の発展や国の政策等(ゲノム医療、チーム医療、在宅医療など)により、臨床検査技師や臨床工学技士を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、今後の臨床検査技師には検査データの動的解釈が求められる。本講義では、病態把握に重要な生化学・免疫学的検査の基礎と臨床応用を学び、実践につながる力を養う。 生化学・免疫学的検査の原理・方法に加えて、異常値、臨床的意義、生理的変動要因を学び、検査データの時系列変化や関連項目を含めた検査データの読み方を学修する。							
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7	
目標1	生化学・免疫学的分析法の原理・方法を説明できる。							
目標2	各分析法の基準範囲と異常値を答えることができる。							
目標3	各分析法の臨床的意義を説明できる。							
目標4	各分析法の分析上および生理的な変動要因を挙げることができる。							
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
各DPへの関連度(計10)						5	3 2	
授業の内容								
1	分析機器と生化学分析法(生化学的検査の基礎と定量検査法の原理、各種臓器機能検査法と臨床的意義)(疾病と機能検査)							
2	無機質の検査(測定法と臨床的意義)							
3	糖質の検査(測定法と臨床的意義)(持続皮下グルコース測定を含む)							
4	脂質の検査(測定法と臨床的意義)							
5	蛋白質の検査(測定法と臨床的意義)							
6	非蛋白性窒素成分の検査(測定法と臨床的意義)							
7	生体色素の検査(測定法と臨床的意義)							
8	酵素の検査(測定法と臨床的意義)							
9	薬物・毒物の検査(測定法と臨床的意義)							
10	骨代謝の検査(測定法と臨床的意義)							
11	ホルモンの検査(測定法と臨床的意義)							
12	腫瘍マーカーの検査(測定法と臨床的意義)							
13	抗原抗体反応による分析法(免疫学的検査法)							
14	免疫検査の基礎知識と技術							
15	免疫機能検査							
ラーニング目標	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	A:小テストによる自己評価 B:症例の検査結果を用いたブレインストーミング				工 夫 其 他 の	・毎回の講義の始めに前回の講義内容に関する小テストを行い、知識の定着・確認をする。 ・講義の後半では実臨床での症例をもとにした課題に対して、学習した内容に照らし合わせて議論し、課題解決をする。	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書の内容を予習する(34h)。						
	事後学修	講義で習った範囲を復習し小テストに備える(34h)。						
	想定時間合計	68						
教科書	・戸塚実、奥村伸生、浦山修、松下誠、浦山修、山内一由、大川龍之介(編集)『最新臨床検査学講座臨床化学検査学(第3版)』医歯薬出版株式会社、2024年、ISBN:978-4-263-22396-3(生命健康科学コースのみ必須)							
参考書								

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	20%										
	期末試験	80%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の実務 経験	加藤（臨床検査技師）、文室（臨床検査技師）											
実務経験を いかした教 育内容	臨床経験を基にして、実臨床で重要となるポイントを盛り込んだ模擬症例の検査結果を制作し、ブレインストーミング課題として使用する。											